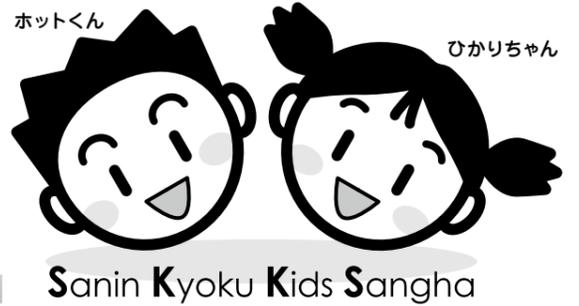


山陰教区 キッズサンガ 通信



Vol.6

2016.3.30

発行:山陰教区教務所 〒690-0002 松江市大正町443-1 TEL(0852)21-4747 FAX(0852)27-8351 発行者:中尾了信 企画・編集:キッズサンガアドバイザー会議

山陰教区キッズサンガの総括

山陰教区キッズサンガアドバイザー 西原真公

2005（平成17）年より、親鸞聖人750回大遠忌法要 宗門長期振興計画の重点項目のひとつ「次世代を担う『人』の育成」に基づき、全寺院で「子どものつどい」キッズサンガがスタートしました。当初はキッズサンガの言葉自体に違和感があり、言葉の意味合いからキッズサンガの理念を浸透させていくのに、ずいぶんと時間がかかりました。また、大遠忌法要に向けてのこともあり、イベント的要素を含んだ事業として捉えられ、理解していただくのにも苦慮いたしました。今でもキッズサンガは子どもに特化した行事をすることだと思われている方も多いと思いますが、キッズサンガというフレーズだけは隅々まで広まったと実感しています。

ただ言葉は知っていても、それぞれのお寺でキッズサンガを行うこととなればもう一歩が踏み出せず、全体の三割程度しか実施されていないのも実情でありました。本来、キッズサンガとは、お寺が子どもを通してさまざまなことに関わることを全てがキッズサンガであります。子ども会とか、イベント行事をすることだけではなく、法事にこられた子どもに『一言、声かけをする』これだけでもりっぱなキッズサンガなのです。近年、その法事に子どもの姿が少なくなり、法事自体も減りつつあります。法事・葬儀の場だけではなく、さまざまな場面で子ども達と関わりをもつことが、キッズサンガであり、関わり続けることがキッズサンガ運動だと私は受け止めています。

山陰教区ではキッズサンガといっても何をしたら良いかわからず、ヒント、事例となるものが欲しいと要望があり、事例集を作成しました。本来ならばこの事例集を使ってもっと展開して行くべきところ、我々の力不足で停滞してしまい、せっかく広がりかけた熱意を閉ざしてしまったと反省しております。

大遠忌も円成し、平成26年度より、子ども・若者ご縁づくり推進室が宗務



所に設置されました。キッズサンガも、その中に組み込まれ、これからは長期振興計画の事業ではなくなり、永続的に続けられる体制となりました。今後はさらに、今まで見過ごしてしまった若者（中高生や大学生）にも、ご縁づくりを進めていく体制となります。来年度より名称は変わるかもしれませんが、山陰教区のキッズサンガはこれからも継続して活動していきます。

この9年間、教区において確固たる実績は残せてないかもしれませんが、ひとりひとりの脳裏に、キッズサンガという“ことば”は定着し、「子どもに対して何かしなければ」という思いを持ってもらえたことが、何よりの成果だと思っております。まだまだ道半ばであり、これからはもっと身近なところで『きっかけづくり』を提案しながら、子ども・若者ご縁づくりの新体制のもと、邁進していく所存であります。今後ともよろしくお願いいたします。

合掌

キッズサンガ「が」参加する

鳥取因幡組

今年度、鳥取因幡組では、組内のお寺にキッズサンガサポーターが向き、少年連盟の教材を紹介する活動を行いました。

組の行事などで会場となるお寺に紹介コーナーを設置。少年連盟が発行する下敷き・鉛筆・ペンケースなど、子どもたちが普段よく使うものを置いて紹介します。設置作業にはそのお寺の若い寺族の皆さんにもお手伝いしていただきます。お手伝いいただくことによって、関心を持ってもらうことも目的のひとつです。



キッズサンガ「に」参加してもらうのではなく、キッズサンガ「が」参加する、という積極的な気持ちの活動を続けていきたいと思っております（写真は、9月に開催された仏教壮年会鳥取ブロック研修会の際の様子）

お供えをおすそわけ

～お寺からのひとり親家庭支援

出雲組妙寿寺

妙寿寺では、月に1度、お菓子や果物を関西地方の2世帯のひとり親家庭に届けています。これは、寺院が中心となってひとり親家庭を支援する「おてらおやつクラブ」の取り組みに賛同し活動しているものです。

妙寿寺が「おてらおやつクラブ」に参加したのは2014年の7月から。寺院が活動の申し込みをすると、担当する世帯が通知される仕組みです。

お供えのおさがりを段ボール箱いっぱい詰めて発送します。送り先のご家庭から喜びのお電話をいただくこともあります。

「おてらおやつクラブ」は、寺院がひとり親家庭を支援する団体と協力し、お寺のお供えものをおさがりとしていただき、経済的に困難な状況にあるご家庭へお裾分けするという全国的な活動です。奈良県のご住職と大阪の団体が協力して2013年に発足。翌2014年から本格的に活動を進めています。

宗派を問わず全国のお寺で取り組まれている活動で、山陰教区でも妙寿寺以外に賛同されたお寺があります。

妙寿寺では今後も継続して活動を行っていきたく考えています。

“見守られている”ということ

邑智東組高善寺 武田正文 (スクールカウンセラー、臨床心理士)

「子どもに元気に育ってほしい」「子どもの心を大切にしたい」というのは、全ての親、全ての大人の願いであります。近年、子どもたちの課題は多様化しており、いじめ、不登校、スクールカースト、発達障害、うつなどなど挙げはじめればきりがありません。こうした心の問題の多くは、現代社会が「こうあるべき」という固定化した価値観に縛られていることから始まっています。

例えば、不登校のケースで、それまでは勉強も運動も得意で友達もたくさんいたのに、たった一つの失敗から学校に行けなくなってしまふことがあります。周りの大人からは「また頑張れば大丈夫だよ」と励まされ、本人も学校に行こうと努力しますが、なかなか動けずその度に落ち込んでいました。そんななか、「できなくてもいいじゃないか」という一言をかけてくれる人が現れ、それまでの元気を取り戻すことができました。

お釈迦さまは、目の前の一人ひとりの状況や性格に合わせて仏教を説かれたそうです。子どもたちも、それぞれ状況も違えば、性格も違います。残念ながらどんな子どもでも元気になれるような魔法の言葉はありません。「頑張れ」と背中を押してほしい時もあるれば、「大丈夫だよ」と寄り添ってほしい時もあります。

そして、親鸞聖人は、自らの力では救われないような私であるからこそ、阿弥陀如来さまは救いのめあてとしてくださるといふ悪人正機をお示しくださいました。今の社会は、一つの失敗をするとやり直

しができないという思い込みに囚われ過ぎています。きっと親鸞聖人は、目の前にどんな心の闇を抱えた人がいても、「私もあなたも阿弥陀如来さまの救いのなかにありますよ」と優しいまなざしを向けておられたのではないのでしょうか。

キッズサンガでは子どもにとって貴重な仏縁となります。周囲の大人や阿弥陀さまが「どんな私でも見守ってくれている」ことを子どもたちに伝えることで、柔軟な価値観を育むご縁となるでしょう。



「子ども・若者ご縁づくり」～キッズサンガをさらに～ 2016 (平成28) 年度からの推進体制について

新推進体制とねらいについて

平成26年度4月に「子ども・若者ご縁づくり推進室」が設置され、また平成27年5月31日をもって「親鸞聖人750回大遠忌法要 宗門長期振興計画」が終結いたしました。この「推進体制について」は、これまでの全寺院「子どものつどい」—キッズサンガ—実施計画の事務提要からの変更点や新推進体制の概要をまとめ、今後、「子ども・若者ご縁づくり (キッズサンガ)」をさらに進めていこうとするものです。

(1) これまでのご縁づくり (キッズサンガ運動)

キッズサンガ推進体制は、2007 (平成19) 年5月に宗門長期振興計画推進対策室 寺院活性化推進部により発行された全寺院「子どものつどい」—キッズサンガ—実施計画の事務提要<教区・組用>にまとめられています。

この事業は、親鸞聖人750回大遠忌法要 宗門長期振興計画 (以下、「宗門長期振興計画」という。)の重点項目「次代を担う『人』の育成」に基づき、子どもと寺院および宗門の将来的展望を切り開くため、全寺院で「子どものつどい」—キッズサンガ—の実施をめざすものとしてスタートした事業です。

(2) 宗門長期振興計画の終了 (新体制の必要性)

平成17年8月から平成29年3月までの12カ年の宗門長期振興計画の中で、総額4億円の予算によりキッズサンガを計画実施いたしました。(なお、宗門長期振興計画は、「宗門総合振興計画基本規程」の施行により平成27年5月31日に終結)

このキッズサンガの成果をふまえ、平成26年ご門主様の法統継承式を機に、3月21日宗則第1号によって、子ども・若者ご縁づくり推進室設置規程を定め、総局のもと「子ども・若者ご縁づくり推進室」が設けられました。これにより、キッズサンガの所掌が、宗門長期振興計画推進対策室寺院活性化推進部から子ども・若者ご縁づくり推進室へ移行いたしました。これは、子ども・若者を対象とした「ご縁づくり」の企画推進及びその活動支援をさらに重点的かつ継続的に推進発展させ、もって宗門の目的達成に資するためであります。

今般、伝灯奉告法要並びに親鸞聖人ご誕生850年・立教開宗800年慶讃法要の修行と記念行事の推進を計画する平成27年から平成36年までの「宗門総合振興計画」実施にあたる時期であることから、あらためて子ども・若者ご縁づくり、キッズサンガの取り組みの新体制を示すこととなりました。

(3) 新体制のご縁づくり (願いを引き継ぎ、新たな挑戦—現状維持では発展しない—)

子ども・若者ご縁づくりでは、目標として「手を合わせ、お念仏申す人になってもらいたい」と表現し、次世代と共に、ご縁を「つくり」、「つなぎ」、「深める」事業計画を推進しています。

これは、小学生以下の年代へのご縁づくりはもちろんのこと、とすればこれ以後途切れることの多かったご縁を、中学生、高校生、さらにそれ以降の年代にまでつなぎ続け、また、これまで全くお寺にご縁のなかった若者へも新たなご縁をつくっていこうとする取り組みです。したがって、これまでのキッズサンガを引き続き推進しつつ、さらに視野と対象年齢層を広げた活動ができる推進体制をつくる必要があります。

宗派の推進室にはマネージャーが置かれ、子ども・若者への経常的なご縁づくりを推進する体制が整いつつあります。教区においても同様に教区マネージャーを置き、これまで以上に幅広い年齢層へ向けたご縁づくり、キッズサンガを推進するための新体制を整えていきたいとするものです。

そのためには、これまでの願いを引き継ぎつつ、新たな挑戦にむけての柔軟で斬新なアイデア・行動力をもって、僧侶、門徒徒がともに意識改革をおこなながら協力して力をあわせていくことなどが必要です。

(4) 事務提要からの変更点

(名称) 子ども・若者ご縁づくり—キッズサンガをさらに—

<事業内容> 親鸞聖人750回大遠忌宗門長期振興計画基本規程 (平成17年宗則第8号) に基づく宗門長期振興計画の重点項目として推進される「次代を担う『人』の育成」に関し、その成果をふまえ、キッズサンガの理念を全寺院に浸透させるとともに、宗門の目的達成に資するため、子ども・若者を対象とした「ご縁づくり」を重点的かつ継続的な推進発展を図るものです。

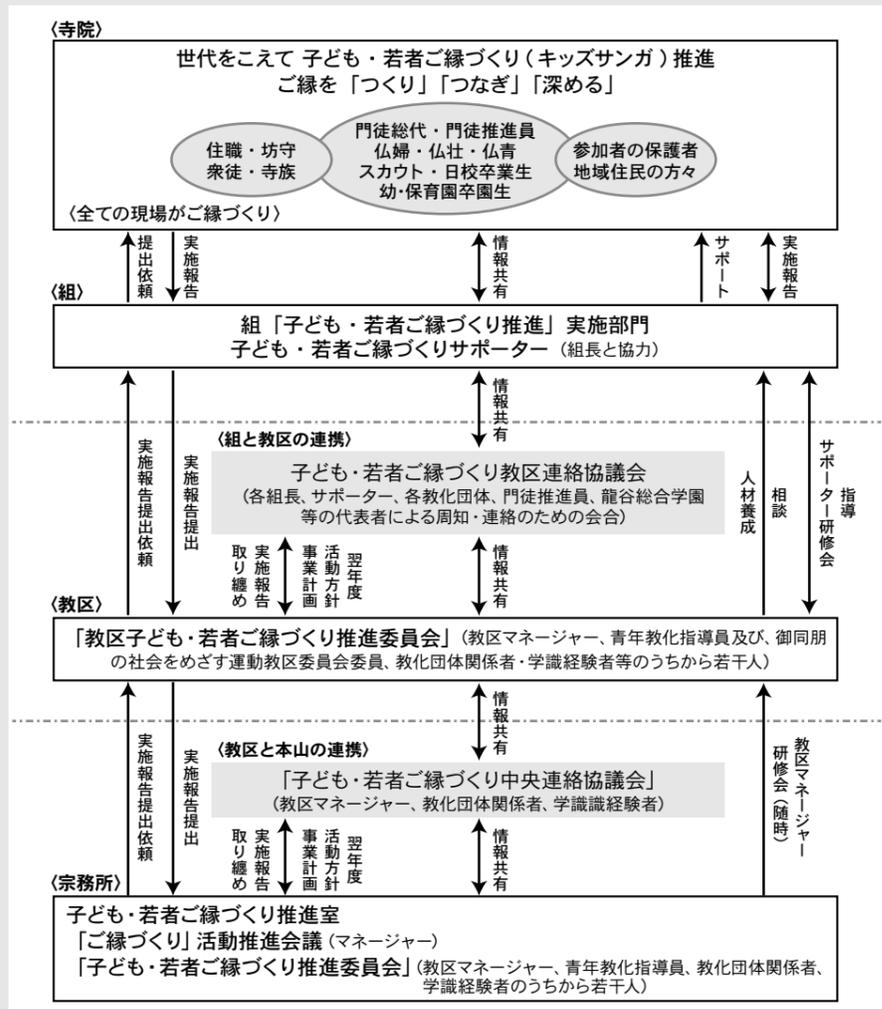
<目的> 親鸞聖人のみ教えのもと、「あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」(浄土真宗本願寺派「宗制」前文) ことを「子ども・若者ご縁づくり」の目的とします

<総合テーマ (目標)> ~次世代育成~ 「子ども・若者ご縁づくり」
ご縁のある大人が、すべての子ども・若者と接点を持ち、共に阿弥陀さまのご縁に会い、全世代が「お寺を居場所」としながら「手を合わせ、お念仏申す」人となることを、「ご縁づくり」の総合テーマとします

<活動テーマ> キッズサンガの願いである、阿弥陀さまのご縁に、子ども・若者そして大人も共に遇っていこうとする教化活動を「ご縁づくり」とし、ご縁を「つくり」「つなぎ」「深める」ことを活動のテーマとします

※2015 (平成27) 年度子ども・若者ご縁づくり推進にかかる活動方針・事業計画書より抜粋
年度毎の活動方針・事業計画は、毎年定めて年度当初に本願寺ホームページ <http://www.hongwanji.or.jp/>へ掲載いたします

子ども・若者ご縁づくり—キッズサンガをさらに— 推進体制図



山陰教区キッズサンガホームページ開設! <http://kids-sangha.saninkyoku.net>

各寺院のキッズサンガの事例紹介などを掲載しています。